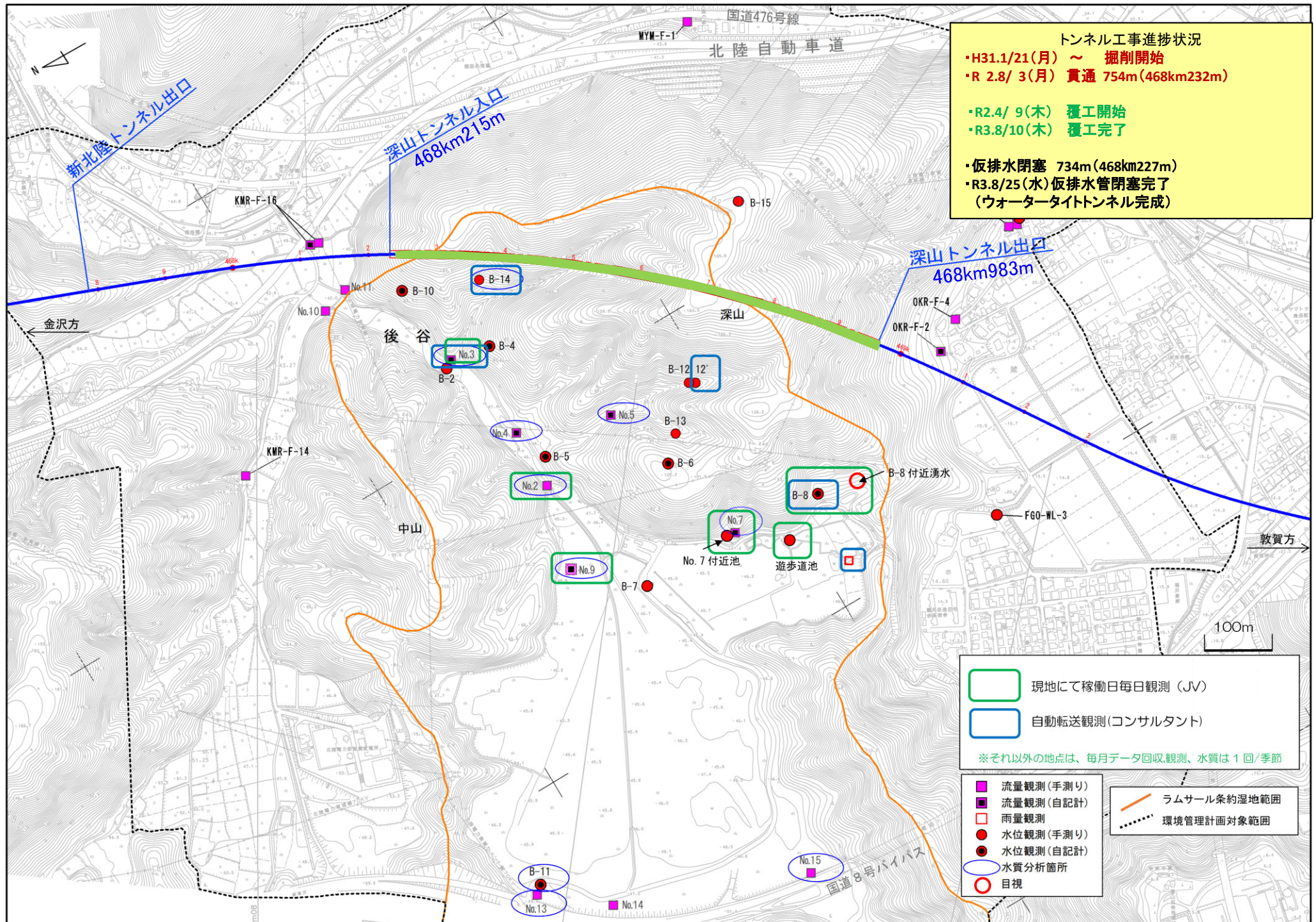


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

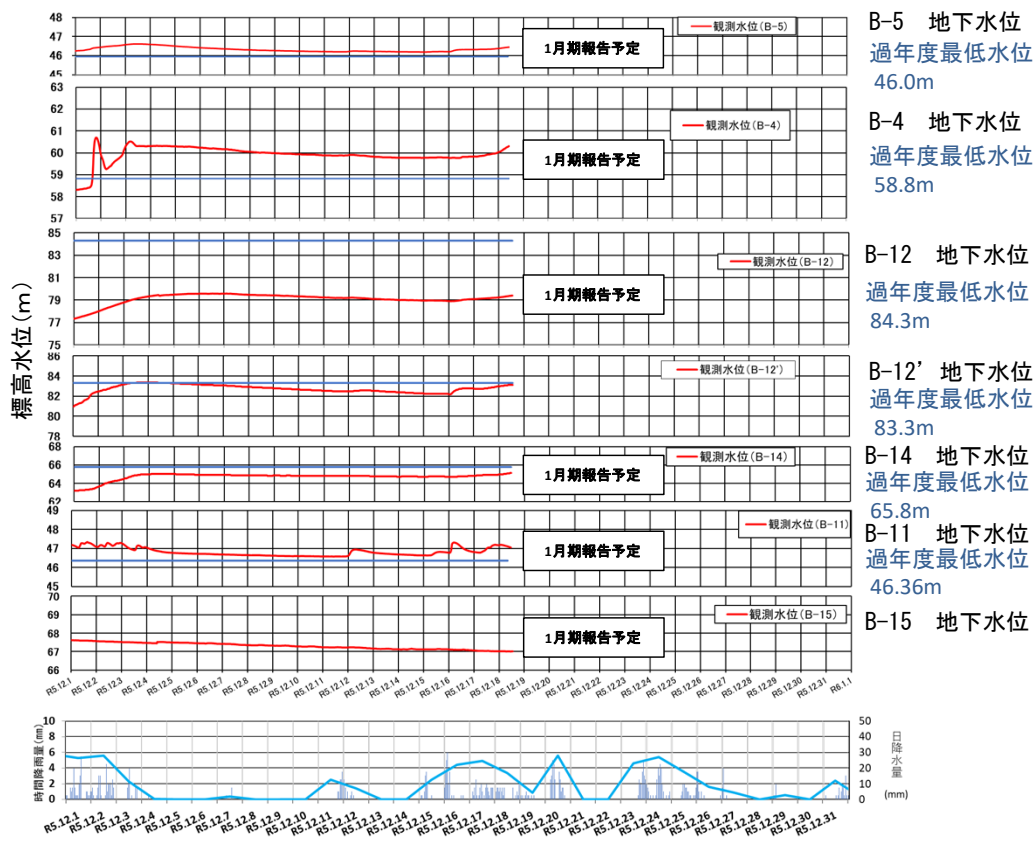
調査期間：令和5年12月1日（金）～令和5年12月18日（月）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



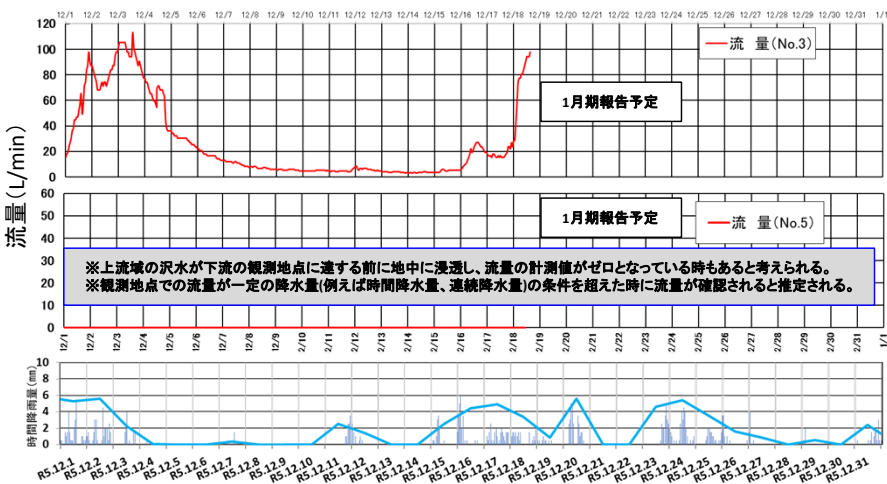
水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋 地下水位観測結果図(自記記録)



※観測データは12月18,19日で引継ぎを行ったため、それ以降のデータは未回収

流量観測結果図(自記記録)



No.3 流量

No.5 流量

降水量

全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり(注意体制への移行を検討)
- 期間中の地下水位低下量
 - 1m未満ないし増加:すべて
 - 2m未満 □5m未満 □5m以上
- 期間中の流量低下量
 - 50ℓ/分未満ないし増加:すべて □50ℓ/分以上
- 期間中のpH変動量
 - 0.5未満 □0.5以上 □1以上
- 日降水量
 - 15mm未満 ■15mm以上(9日) □50mm以上
- 月降水量
 - 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概要

■水位変動について

- ①目立った変動なし
- ②B-4(自記水位計): 期間中の降水に明瞭な反応を示す。期間中の水位は概ね一定であり、降雨の影響で過年度最低水位を上回る状態が継続する。
- ③B-5(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。水位は期間を通して概ね一定である。過年度最低水位を上回る状態が継続する。
- ④B-12(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑤B-12'(自動転送): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。降雨の影響で過年度最低水位まで水位が上昇しているが、下回る状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑥B-14(自動転送): 期間中の降水に不明瞭ながらも反応を示す。期間中の水位は概ね一定であるが、過年度最低水位を下回っている状態が続くため、今後も注視していく。
- ⑦B-15(自記水位計): 期間を通して水位は緩やかな減少傾向となるが、降雨の影響により傾きは緩やかになってきている。

■流量変動について

- ①No.3(自動転送): 期間中の降水に明瞭な反応を示し流量は一時的に増加傾向を示す。期間を通して降雨がない時には5L/min程度の流量である。
- ②No.5(自記): 期間中は0L/minの状態が続く。
 - ⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
 - ⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①12月の日最大降水量: 12/2,20の28.0mmである。
 - ⇒11月の日最大降水量: 11/30の29.0mmである。
- ②12月の降水量: 291.5mmである。
 - 昨年12月は348.5mm、平年値(敦賀アメダス)は316.7mm
 - ⇒11月の降水量: 156.5mmである。
 - 昨年11月は103.5mm、平年値(敦賀アメダス)は176.0mm